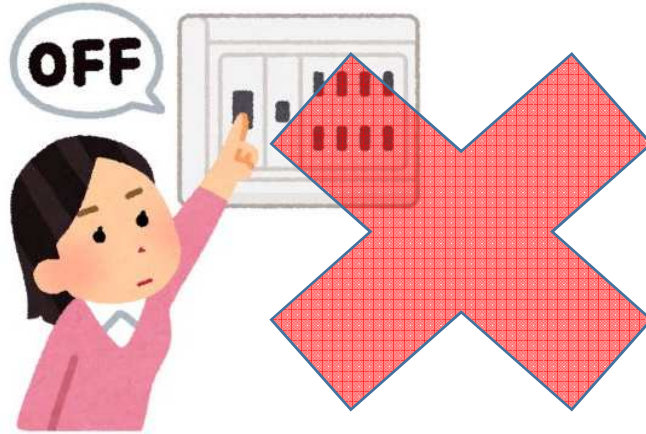
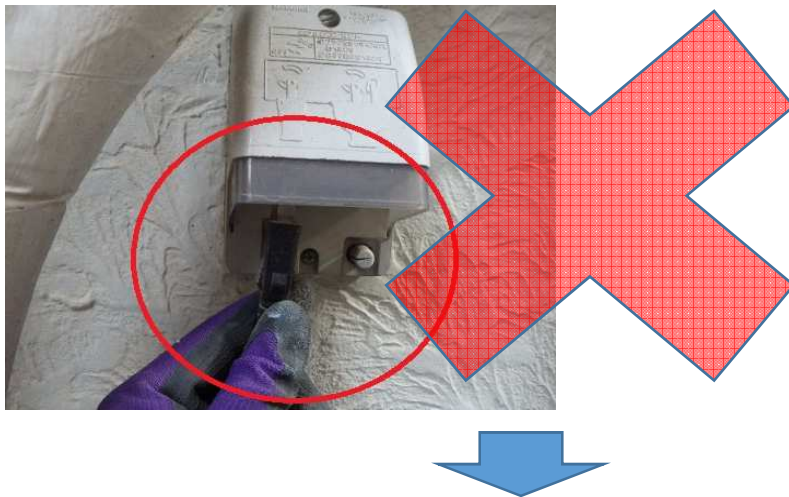


# 給湯器の「凍結」に注意！

①室内電気ブレーカー遮断は行わない様おねがいたします。



②給湯器の電源プラグは抜かない様おねがいたします。



・給湯器器具内の凍結防止ヒーターが、凍結の危険となる気温近くになると自動的に作動します。

(運転スイッチの「入・切」に関係なく凍結予防いたします)

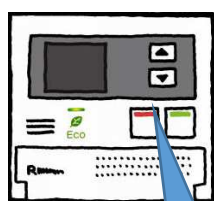
通電されていないと凍結防止ヒーターが働かず、給湯器本体が凍結により破損する恐れがございますので必ずお守りください。

# 寒波の際に給湯器や配管等、凍結を防ぐには！

低温注意報が発令された時や、冷え込みが厳しいときは  
給水および給湯配管や給水元栓の凍結を防ぐため、下記の  
通水処理を行ってください。

## ①「給湯リモコン有」

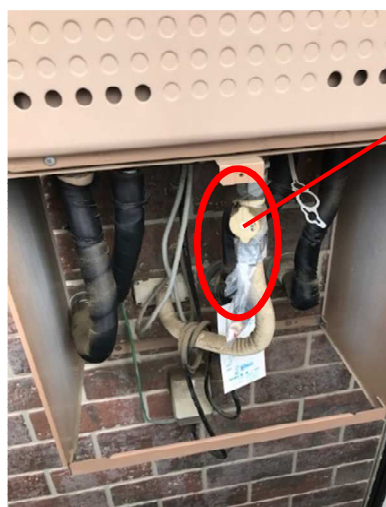
運転スイッチを「切」にする



OFF

## ①「給湯リモコン無」

給湯器接続ガス配管のガス栓を閉める



ガス栓



※配管の向きと垂直になるようにバルブを回す！



②お風呂の給湯栓を開いて、  
(1分間に約400CC・太さ約4mm)を流したままにしておく



給湯栓を開く



給湯側に回してから栓を開く

## 凍結してしまった場合は！（凍結してお湯が出ない場合）



気温上昇により自然に解凍するまで待つことをおすすめします。



給湯栓から水が出るようになっても、機器や配管から水漏れなどが無いか、よくご確認の上使用してください。

### **■すぐにお湯を使いたい場合は、下記の方法をお試しください■**

①運転スイッチを「切」にし、台所などの給湯栓を少し開けておく



**給湯側に向けてから開ける**



**給湯栓を開ける**

②給湯器接続ガス配管のガス栓を閉める

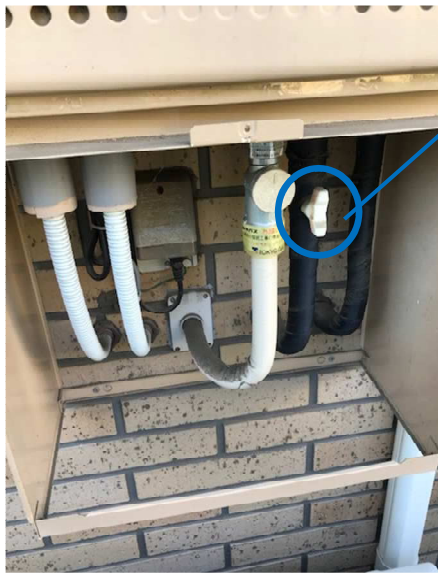


**ガス栓**



**※配管の向きと垂直になるようにバルブを回す！**

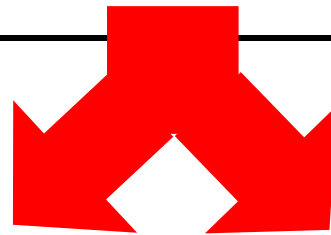
③給湯器接続給水配管の給水元栓を回してみる(閉めてみる)



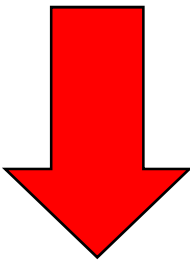
給水元栓



回してみる!



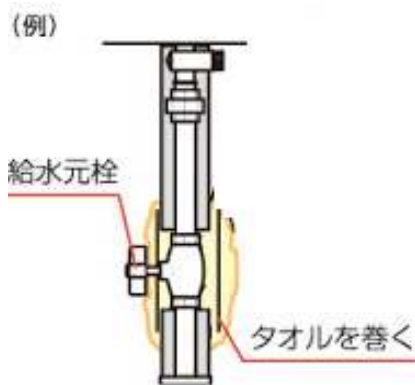
給水元栓が凍結して回らない場合



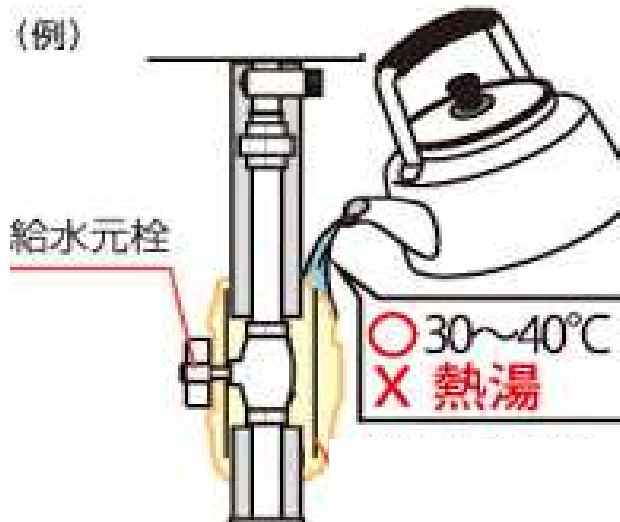
給水元栓が回るのに水が出ない場合

給水元栓以外が凍結している為、  
気温上昇により、自然に解凍するまで  
お待ちください

④タオルを給湯器接続給水配管の給水元栓のまわりに巻く



⑤人肌程度(30~40℃)のぬるま湯を給水元栓に巻いたタオルにゆっくりかける。



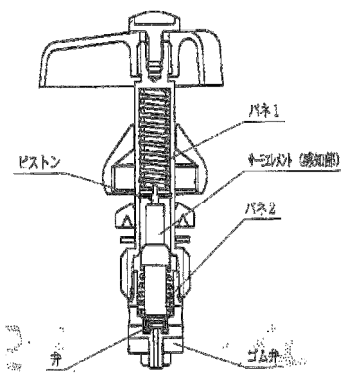
⑥給水元栓が回る(水が流れる音がする)ようになったら、①で開けた家の中の給湯栓を閉める

⑦タオルを外し、給水元栓のまわりについた水を乾いた布で拭き取る。



# 保温材を被せても 凍結してしまう場合は!!

## 自動不凍コマをお勧めします!!



自動不凍コマ



自動不凍コマ付万能水栓

### ◆自動不凍コマとは？

- 内部にサーモが内蔵されており、外気温が $1.7^{\circ}\text{C}$ を下回ると、ほんの少し弁が開き、水を自動的に流し、凍結を防止します。外気温が $4.5^{\circ}\text{C}$ まで上がると閉じる仕組みになっています。
- 平常時の使用は普通の蛇口とまったく同じです。

### ◆水はどれくらい流れるの？

自動不凍コマ



- 最低気温、 $-5^{\circ}\text{C}$ ~ $-6^{\circ}\text{C}$ で1日に6~8リットルの水がでます。バケツ1杯分です



-5°Cで約6リットル

# 冬が近づいてきました 凍結の季節

あれれ!!!  
水もお湯も  
でないよ!!!



## 凍ってからでは遅い!!! 思っているより大出費!!!

### ご自分で出来る凍結予防

#### ③屋外コン柱水栓

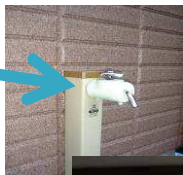
水栓の露出部を断熱材あるいはヒーターで保温しましょう。発泡シート等の水を吸い込まない材質のものを巻いて、ビニール袋をかぶせる方法もあります。水が出ない時は、蛇口のまわりにゆっくりとぬるま湯をかけます。急に熱いお湯をかけないでください。給水管が破裂することがあります。



#### ■外部水栓保温材

当社で開発しました。

※ご希望のお客様は  
無料で差し上げます  
ご連絡ください。



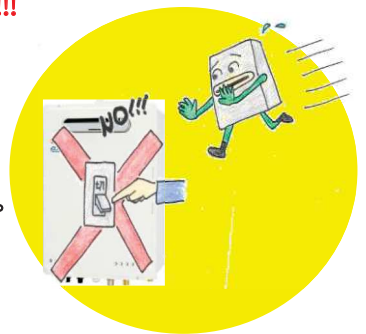
電話 **042-527-9748**

※水栓の種類によって取付けられない場合がございますのでご了承ください

#### ①給湯器

長期不在になる場合でも給湯器のブレーカーは落とさないでください!!!

万が一ブレーカーを落とさなければならぬ場合はメーカーの取扱説明書にしたがって水抜きを行ってください。



#### ②水道メータボックス・散水栓ボックス部

ボックス内に発泡スチロールなどを詰めたりして保温しましょう。

